

1. 調査報告概要表

作成日 2010年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1073000133
法人名	医療法人 春香会
事業所名	グループホーム プランタンの家
所在地	群馬県みどり市大間々町桐原1570-203 (電話) 0277-72-0202

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 22年 1月 14日

【情報提供票より】(21年12月 28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 専任3兼務4人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建て 1階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	600 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1		名	要介護2	4	名
要介護3	1	名	要介護4	2	名
要介護5	1	名	要支援2		名
年齢	平均 86歳	最低	80歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小保方医院 加孝歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣に老人保健施設があり山間部に建てられているが地域との交流や隣の施設の利用者との交流が図られている。施設も地域に協力をしたいと玄関外にはベンチを置き散歩の人など気軽に休んでもらえるよう配慮している。道路清掃のときなどにはお茶など飲んでもらい地域の人との交流を大切にしている。また地域の人もボランティアとしてホームを訪れている。老人保健施設で行われている趣味の活動に利用者は個別の楽しみとしてダンスに通い、またリハビリに通っている。施設は利用者の衰えも受け入れ食事の形態、食事の時間など個別の老いも見守っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の見直しでは3ヶ月に一度の見直しを行っているが毎月のモニタリングは行っていない。共用空間の整理がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員が随時話し合い1ヶ月くらい掛けて職員全員で作成をしている。運営推進会議にもかけ配布している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年10月より市職員の参加があり2ヶ月に一度定期的開催している。運営推進会議を通して厚生会館にて行われた作品展に出品と見学をする事が出来た。会議では地域の人にグループホームに入所している人の生活を理解してもらうため状況報告や活動報告などが行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は家族から意見など言いやすいように工夫している。毎年家族にアンケートをとりその中から家族の意向を吸い上げようとしている。意見箱も設置されている。苦情窓口も設けられていてホームは家族からの意見などを聞く体勢が出来ている。また苦情はサービスに反映させたいと考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣との付き合いを大切にしてホームの外にベンチを設置し散歩の人に提供している。ホームの隣に老人保健施設があり、山間部にあるが孤立してはいない。納涼祭には近隣の人を招待して食事を一緒に楽しんでもらっている。自治会には入っていないが道路清掃の時などお茶を近所の人に飲んでもらっている。地域の人がボランティアで絵手紙、ダンス、太極拳などの先生としてきてくれている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念をわかりやすく、4つの項目にして作られている。理念は見やすい場所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は仕事をしていても見える場所に掲示してありサービスを提供している時も振り返る事が出来る。管理者は常に理念に添った支援を職員に話しており職員間に共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏には納涼祭が行われている。地域住民、運営推進会議メンバー、家族などを招待して地域との交流が図られている。地域のお祭りの時は子供みこしが来たり、保育園児の慰問などもあり日常的に地域の人達との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者と職員が1ヶ月ぐらいかけて作り上げ管理者がまとめたものである。昨年度の改善についても話し合っている。運営推進会議の参加者にも報告し配布している		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年10月より市職員の参加が実現している。2ヶ月に一度定期的にかかれている。ホームの利用者の生活を理解してもらえよう施設の方から現況報告、活動報告など行っている。また参加者からの助言で厚生会館での作品展に出品、見学が出来た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当者に電話で解らない事を相談したり、申請の書類などを持参している。市で行われた意見交換会にも参加している。また介護相談員とも情報の交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回春夏秋冬の便りを家族に郵送している。面会時には健康状態など家族に報告をしている。金銭の出納、受診時の報告なども行っている。急ぎの報告はその都度電話で家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族からの意見を聞く努力を行っている。毎年アンケートをとり家族の意見を聞く機会を作っている。面会時には家族が意見を言いやすいよう声を掛けている。家族からの意見はサービスに反映させたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の交代は最小限にしたいと努力している。新入職員に対しては管理者が指導し1ヶ月くらいを掛けて仕事に慣れてもらう。日勤から覚えてもらい夜勤をしてもらう。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育に研修が大切である事を管理者は理解している。法人での研修と外部の研修があり職員は研修に参加している。食中毒、認知症、管理者研修、口腔ケアなどに参加している。職員が希望する研修がある場合には管理者は出来るだけ職員に参加してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。レベルアップ研修、グループホーム大会などに参加している。また同法人のグループホームとも交流がある。東毛地区研修にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と本人が施設を見学して納得してから入所してもらうようにしている。体験利用などの体制もあり徐々に馴染んでもらい安心した生活の場所になるような工夫がされている。デイサービス利用から入所になる場合もある。帰宅願望がある人に対しては声掛けなど多くして対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の日々の生活や会話の中からのいろいろな事を教えてもらっている。資料館に見学に行き昔の生活の姿を覚えてもらったり、うどんなど料理作りを覚えてもらって、人生の先輩として共に生活をしながら支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時には家族から情報をもらい本人の意向や家族の意向などの確認をしている。普段は生活の中で利用者の訴えた事を大切にしている。発言の出来ない人からは表情や動作、家族からの情報を元に推測をして意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から意向の確認を行いケアマネジャー、職員は月に一度ケア検討会議がありその場で介護計画が作成されている。家族の確認印は職員が面会時などに家族からもらっている。介護計画は職員に共有されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時の見直しと3ヶ月毎の見直しが行われている。モニタリングは毎月行われていない。	○	毎月のケア会議にて状況の話し合いがされているが毎月のモニタリングがされていない。毎月のモニタリングにより見直しが現状に即したものになるのでモニタリングを行って見直しにつなげてもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院支援、利用者の買い物支援、リハビリ送迎支援など柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医となっているが、協力病院から週1回の往診があり、家族は説明を受けどちらかを決める事が出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての対応方針が出来ており、家族等に説明をしている。ホームには医療連携体制が出来ており、本人や家族等の意向を聴きながら今後の方針を決めるようにしている。今までに看取りの経験はない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に配慮するよう職員は法人の研修を受けている。入職時には法人との間に誓約書を交わしている。排泄時の声掛けなどは他の人にわからないように配慮している。また記録物は事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかに食事の時間が決まっているが体調や気分によりその場に合った支援がされている。夜眠れない人には暖かいものなど飲んでもらったりしている。食事もその人に合わせた配慮がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望するメニューなどは月に一度ある給食会議に掛けメニューが取り入れられている。年に2回希望のメニューのアンケートがとられて好きなものを食べてもらう工夫が来ている。おやつなどは一緒に作り楽しんでいる。職員は利用者と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望すれば入浴が出来る体制が出来ている。基本的には週3回の入浴をしている。入浴拒否のある人には入浴剤などの工夫で入浴を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として調理の下ごしらえ、お茶配り、テーブル拭き、食器洗い、など楽しみごとは絵手紙、謡い、書道、ダンスなどある。気晴らしの支援として外食、花見、踊り、運動会、祭り、誕生会など支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩を行っている。外気浴として外でお茶を飲む、隣の老人保健施設に出掛けるなど日常的に外出の支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は鍵をかける事の弊害を理解している。極力鍵は掛けない努力をしている。山の斜面にホームがあるので職員が1人の場合には施錠を行っている。そのほかは鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の立会いで防災訓練を行っている。1回は夜間を想定した訓練をしている。地域の住民に協力委員の依頼をしている。緊急の連絡網が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分量の記録がされている。水分量の目安は一日1000ccとなっている。食事は5段階の食事量で記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は日当たりがよく出窓には観葉植物や花が飾られている。温かな日差しを浴びながら食卓を囲むことが出来る。玄関にはベンチがあり、座ってゆっくりと外を眺める場所も用意されている。又外にもベンチが用意されていて、近隣の人が話し込む事も出来る。廊下には写真、作品など掲示されている。利用者の書いた理念が見えやすいところに貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたものが持ち込まれ個性が表れている。ベッド、箆笥、鏡台、座布団、人形、写真、など馴染みのものが持ち込まれている。		